



CHECK POINT CAPSULE DOCS

製品の特徴

- 文書作成時に、デフォルトでセキュリティを設定
- パスワードが不要なため、文書にシームレスにアクセス
- グループまたは個人単位で文書のアクセス権を設定
- PCやiOS/Androidのスマートフォン、タブレットで文書を表示、編集
- 必要なアクセス権を設定（読み取り、編集、印刷、分類の変更、保護機能の解除、ユーザの許可設定の変更、画面印刷、コピー/貼り付け）
- 文書を暗号化して機密データを保護
- 文書のアクセスや利用履歴を確認

製品の利点

- 社内外でビジネス文書のセキュリティを確保
- 文書作成時にセキュリティを設定
- 許可された個人やグループのみが文書にアクセス
- 情報漏洩のリスクなしに文書を共有、アップロード
- アクセス許可を得ている受信者が文書に対して行える操作を指定

課題

社内または外部のビジネス・パートナーや顧客との文書共有は、現代のビジネス環境にとって極めて重要です。しかし、共有する文書へのアクセス権限を管理できなければ、自社を情報漏洩のリスクにさらしてしまう結果を招きます。

今日のビジネス文書は、自宅やコーヒー・ショップ、空港から電子メール、クラウド・ストレージ・サービス、リムーバブル・ストレージ・デバイスを通じて共有されています。しかし、こうした管理外の環境で共有や利用が進むことで、深刻なリスクの増加につながります。悪意はなくても、社員が機密データを含む文書を間違った相手に送信してしまう場合や、セキュリティ侵害を受けたクラウド・ストレージ・サービスとは知らずに文書をアップロードしたり、リムーバブル・ストレージ・デバイスを紛失したりする事態も起こり得ます。いずれも、情報の漏洩や悪用、不正アクセスを誘発しかねません。

一般的に、文書はどのように保護されているのでしょうか。今日の多くの企業は、文書のセキュリティ対策を一切講じていないか、紛失や失念、盗み出される可能性のある脆弱なパスワードで機密文書を保護しています。平均で 49 分に 1 回の割合で機密データが社外に送信されているなどの調査結果¹を考慮すると、ビジネス文書のセキュリティ確保は欠かせません。そのため企業は、ビジネス文書が管理下から離れても、効率よくシームレスに保護できるソリューションを必要としています。

解決策

Check Point Capsule Docs は、文書に対するアクセスを許可されたユーザだけに限定しつつ、シームレスな保護を実現します。社内外を問わず機密文書は暗号化されるため、内容は確実に保護されます。

Check Point Capsule Docs では、「誰」が文書にアクセスできるか、「どのような操作」を行えるかを定義できます。オンサイトの管理機能から、文書を共有したユーザや利用履歴を監視できるほか、ユーザのアクセス権をリモートから取り消すことも可能です。

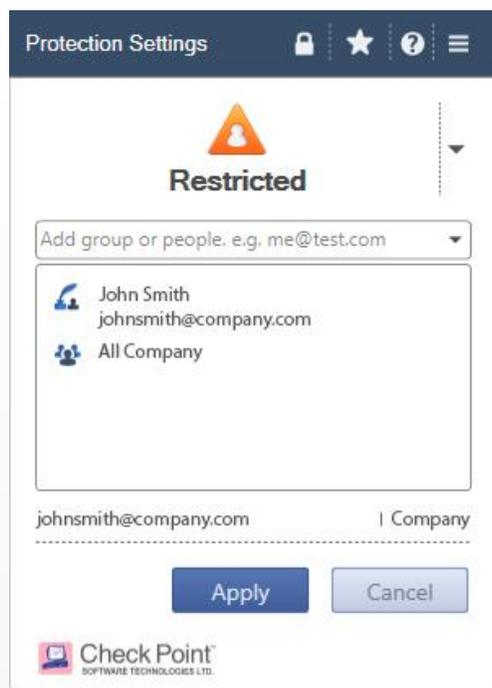
Check Point Capsule Docs なら文書の移動先に関わらずユーザ設定のセキュリティが適用されるため、安全な共有が確保できます。

¹ Source: Check Point 2014 Security Report

文書の作成時にセキュリティを設定

Check Point Capsule Docs では、ビジネス文書は作成段階でシームレスに保護され、許可された社内のグループや個人または社外の組織に限定してアクセスを許可できるようになります。文書の作成時にセキュリティを設定できるため、ユーザによる意図せぬ機密データの共有を阻止することが可能です。

文書の作成者は、「誰」が文書にアクセス可能で、「どのような操作」を行えるかを指定できます。文書の権限は、「読み取り専用」から、電子透かしを使用した文書の分類や、印刷やスクリーン・ショット撮影の防止など細やかな条件および「フル・アクセス」まで設定可能です。新たに作成した文書に対しデフォルトのセキュリティ・レベルを設定しておくことで、機密データの意図せぬ共有を防ぎ、安全性を維持できます。



社内外で文書のセキュリティを確保

Check Point Capsule Docs を導入すると、Mac OS/Windows をベースとするシステムや、iOS/Android を搭載したモバイル・デバイス上のアプリを通じて安全な文書にアクセスできます。

文書は、アクセス権や、読み取り、編集、印刷、分類の変更、画面印刷、コピー/貼り付けなどの権限設定および暗号化も可能で、機密データのセキュリティ強化を図れます。Check Point Capsule Docs なら、情報漏洩のリスクなしに文書を共有、アップロードすることができます。

高度な監査およびレポーティング

企業は、文書の使用状況を詳細に把握し、潜在的なデータ漏洩や不審なユーザ・アクションを容易に追跡できます。チェック・ポイントの管理プラットフォームの一機能として利用できる Check Point SmartLog™ には、文書のあらゆるアクティビティ・ログが表示されます。この機能により、管理者やセキュリティ担当者は、漏洩のリスクにさらされる可能性のあるデータをユーザや文書の監査証跡を通じて監視することが可能です。

仕様

サポートされるオペレーティング・システム

- Microsoft Windows 8および8.1 (32/64ビット)
- Microsoft Windows 7 Enterprise、Professional、Ultimate (32/64ビットおよびSP1)
- Windows XP Pro (32ビット、SP3以降)
- Mac OS 7、8、9 (ビューアのみ)

アプリケーションのサポート

- Microsoft Office 2010 (32/64ビット) および2013 (32/64ビット)²
- Microsoft Office 2003~2007 (32ビット)
- Adobe Reader 8~11
- Acrobat Pro 8および9

ドキュメントの権限設定

- 読み取り
- 編集
- 印刷
- 分類の変更
- 保護機能の解除
- ユーザの許可設定の変更
- 画面印刷
- コピー/貼り付け

モバイル・プラットフォームのサポート

- iOS 6、7、8 (iPhoneおよびiPad)
- Android 4以降 (モバイル・デバイスおよびタブレット)

管理機能

- オン・プレミス
- Webベースの管理インタフェース
- Active Directoryコネクタ

² Microsoft Office 2010 (64ビット) および 2013 (32/64ビット) は最も一般的な利用シナリオに対応

製品に関する お問い合わせ

チェック・ポイント・ソフトウェア・テクノロジーズ株式会社

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-5-3 建成新宿ビル6F

Tel : 03 (5367) 2500 E-mail : info_jp@checkpoint.com Web : www.checkpoint.co.jp